

「銀木犀」の描写の違いを捉えて自分の考えを表現しよう

春富中学校の1年生が「場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて作品を読み進めていきます。この授業では、冒頭と結末の「銀木犀」の描写の違いを捉える活動を通して、登場人物の心情の変化について、叙述をもとに自分の考えを表現します。スクールタクトに自分の考えを書いた後、友だちの意見を見たり聞いたりする中で、自分の意見を再構築したり友だちの意見を取り入れたりしながら、文章に対する理解を深めたり、自分の考えを深めていきます。



①子どもたちは前時までに「銀木犀は私にとってどのような存在か」について追究してきました。各自の考えをクラス内で共有しました。



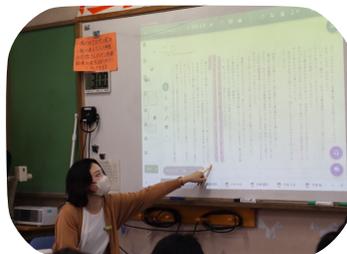
②物語の最後の場面で「銀木犀の花を『土の上にはばらばらと落とし』、『銀木犀の木下をくぐって出た』私は何の決意をしたのか」という課題が示されます。



③子どもたちは、示された課題について「自分の考え」をスクールタクトに書きます。（この時スクールタクトは「共同作業OFF」に設定しています）



④スクールタクトは「共同閲覧モード」に切り替えます。子どもたちは友だちの意見と比較しながら自分の考えを検討していきます。



⑤友だちの意見を検討する中で、自分の考えを強化したり、友だちの意見を取り入れて再構築したりしていきます。この活動を通して、文章に対する理解を深めたり自分の考えを深めたりしていきます。



⑥振り返りです。スクールタクトを用いることによってクラスのすべての友だちの考えに触れることができました。ICTを活用することによって自分の学びが深まっています。

春富中学校 国語 池上日奈子 先生の授業をもとに公開研究会への問題提起として、推進センターで編集しました。

授業者から

(池上日奈子 先生 春富中学校 1年3組)



単元：「星の花が降るころに」(教材と授業場面については各校で共有してください。) 習得してほしい国語での力は、今回は「読む」ことに特化した授業に取り組みました。叙述に基づいて自分の意見を構築する力をつけたり、さらに他の人の意見と比較し共通点や相違点に注目することによって自分の意見をアップデートしたりすることを目指しています。ICTを使うことによって瞬時に他の人の考えを見られることが強みだなと感じます。普段は生徒が小さな紙に意見を書き、それを回収し、印刷して次の授業時間に共有しています。

このことが、リアルタイムに実現できます。本文に傍線を引いたものを共有した場面でも友だちが違ったところに注目していることを視覚的に捉えることができました。子どもによってはなかなか考えがまとまらず、取り組みが滞ってしまうこともあります。そのような子に対してはチャット(コメント機能)による支援を行うことができます。これからの展開は?今回の授業では「読む」こと「書く」ことをねらった授業を行いました。この授業をもとに次では話し合いを中心とした「話す」ことや「聞く」ことの活動を展開していきます。

講師の先生からの課題提起

(谷塚光典 先生 信州大学教育学部)



公開授業をもとに谷塚先生からの課題提起です。ビデオを視聴した上で、当日の研究会にご参加ください。また、課題に対して、各学校ごとに、事前に考えを集約していただきたいと思います。

当日は、各学校からの発表をいただきながら、公開研究会を進めていきたいと計画しています。

研究討論のポイント 国語「星の花が降るころに」

- ICT活用で、全員が発表者に
- 友達のschoolTaktをいつでも閲覧・参照可能
- 「根拠にした本文に線を引く」を見ながら
- 対面での意見交換の場はどのくらい必要か(本時/単元)
- ICT活用で、効果的な机間指導・個に応じた指導を
- schoolTaktの一覧表示機能で、進捗状況を随時把握
- schoolTaktのコメント機能で、生徒とチャット
- いつでも質問可能、いつでも指導可能、指名に活かす
- ICT活用で、学習の見通しを持てる振り返りに
- schoolTakt 7枚目の振り返り「どのようにあてを達成したか・友達の考えを参考に、よりよい考えが書けたか」
- 本時の主眼に対応した振り返り → 本時の評価に
- 各教科等に応じた振り返り → 単元全体や学期毎の評価に

伊那市情報委員会によるICT Conference 2023 公開授業

伊那市の情報委員(中学校部会)の先生方が参加していただきICTカンファレンスの公開授業が行われました。先生方の授業記録をスクールタクトで共有し学び合いました。

友だちの考えを参考にして自分の意見を再構築できるという点でICTを有効に活用できていたと感じました。多くの意見を見ることができ、場面にに応じて見るページを限定して、その中で友だちとの会話を通して再構築する活動があってもいいのではと感じた。

生徒は銀木犀の文章と時間をかけて向き合っていました。「材」との対話として、とても大事なことだと思いました。従来の発表型の授業をやめて、共同閲覧を取り入れたの挑戦の継続を期待します。

(参加者からの感想の抜粋)